

番号	19	平成29年度公共事業再評価調書				担当課名 港湾整備課																																																					
事業名	海岸環境整備事業			事業主体	静岡県																																																						
箇所名	あたまこうかいがん 熱海港海岸			関係市町村	熱海市																																																						
事業採択年度	平成 3 年度		計画期間	平成3年度 ~ 平成41年度																																																							
用地着手年度	平成 - 年度		工事着手年度	平成 3 年度																																																							
再評価理由※	再評価実施(H24)後5年間が経過した時点で継続中																																																										
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H27年度	H28年度	H29年度見込	計																																																					
	21,149		14,813	18	72	14,903																																																					
事業概要	<p>(1)事業目的 海岸防災機能を確保しながら、海浜と地域の特性を十分に活かし、地域住民が海と親しみ、集い憩える場を創出するために、親水護岸と海岸緑地の整備を図る。</p> <p>(2)事業内容 ○渚地区：突堤：1基 堤防：延長630m 遊歩道：面積22,800m² 植栽：面積4,330m² ○多賀地区：突堤：3基 護岸：延長840m 離岸堤(潜堤)：延長350m 遊歩道：面積64,000m² 養浜：面積57,000m²</p>																																																										
【視点1】	(1)事業を巡る社会情勢等の変化																																																										
事業の必要性	<p>○渚地区：平成8年に第1工区、平成11年に第2工区、平成21年に第3工区が完成し、海上花火大会等様々なイベントに活用され、近年の観光客の増加で、第4工区の早期完成が望まれている。</p> <p>○多賀地区：平成22年に北工区が長浜海水浴場として供用を開始し、市民や観光客に親しまれており、近年の海水浴客の増加で北工区だけでは手狭な状況となっている。</p>																																																										
	<p>(2)事業の投資効果</p> <table border="0"> <tr> <td>費用</td> <td>372.31</td> <td>(億円)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,073.72</td> <td>(億円)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>5.56</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>(3)事業の進捗状況</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>渚地区</td> <td>多賀地区</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>(完了)</td> <td>第1工区・第2工区・第3工区(100%)</td> <td>北工区(100%)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>第4工区</td> <td>南工区</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>(進捗率)</td> <td>70.5 %</td> <td>事業費ベース(平成29年度末見込み) 14,903百万円/21,149百万円</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>62.0 %</td> <td>事業量ベース：平成29年度末見込み</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>渚地区：438m/630m 69%、多賀地区：463m/840m 55%</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>評価 <u>継続が妥当</u> 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						費用	372.31	(億円)				便益	2,073.72	(億円)				B/C	5.56						渚地区	多賀地区				(完了)	第1工区・第2工区・第3工区(100%)	北工区(100%)				(残事業)	第4工区	南工区				(進捗率)	70.5 %	事業費ベース(平成29年度末見込み) 14,903百万円/21,149百万円					62.0 %	事業量ベース：平成29年度末見込み						渚地区：438m/630m 69%、多賀地区：463m/840m 55%		
費用	372.31	(億円)																																																									
便益	2,073.72	(億円)																																																									
B/C	5.56																																																										
	渚地区	多賀地区																																																									
(完了)	第1工区・第2工区・第3工区(100%)	北工区(100%)																																																									
(残事業)	第4工区	南工区																																																									
(進捗率)	70.5 %	事業費ベース(平成29年度末見込み) 14,903百万円/21,149百万円																																																									
	62.0 %	事業量ベース：平成29年度末見込み																																																									
		渚地区：438m/630m 69%、多賀地区：463m/840m 55%																																																									
【視点2】	(1)事業を巡る社会情勢等の変化																																																										
今後の事業の進捗の見込み	<p>・渚地区については、予算確保に努め、残る第4工区の早期完成を目指す。</p>																																																										
	<p>評価 <u>継続が妥当</u> 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>																																																										
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性																																																										
	<p>・管内における建設発生土を埋立土として有効利用し、コスト縮減を図る。</p>																																																										
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を <u>継続</u> 見直し後継続 ・ 中止) する。																																																										
	(2)理由 事業は着実に進捗し、海岸利用者の利便性向上は図られている。また、毎年多くのイベント等が開催されており、熱海市の観光拠点となっている。(地域活性化に寄与している)事業を継続し、事業効果の一層の発現に努める。																																																										

費用対効果算出説明書

熱海港海岸 海岸環境整備事業(渚地区、多賀地区)

「海岸事業の費用便益分析指針」国交省港湾局 H16.6

「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」国交省 H29.3

1. 分析設定

・供用年数 50年

・社会的割引率 4%

・費用対効果分析の基本的な考え方

「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版) 平成16年6月」

「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル 平成29年3月」

2. 分析結果

総括表

総便益B	○海岸環境保全便益【海岸景観の保全・改善便益】 CVM(仮想市場法)により算出	51.34億円	2,073.72億円
	○海岸利用便益【レクリエーション等の利用の維持・向上効果】 TCM(旅行費用法)により算出	2,022.38億円	
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]		372.31億円
B/C			5.56

総便益

○海岸環境保全便益【海岸景観の保全・改善便益】

CVM(仮想市場法)により当該地背後の住民に対して行ったアンケート結果より支払い意志額の平均値を算出し、当該地背後の世帯数を乗じて便益を算出した。

	支払い意志額平均	世帯数	年間便益
渚地区	9,716 円/世帯/年	12,180	1.18億円
多賀地区	11,021 円/世帯/年	4551	0.50億円

$$B = \sum \text{年間 海岸景観の保全・改善便益} / (1+0.04)^n$$

$$= 51.34 \text{ 億円}$$

○海岸利用便益【レクリエーション等の利用の維持・向上効果】

TCM(旅行費用法)により来訪者にアンケートを行い、ゾーン(都道府県)ごとのトラベルコストと来訪者頻度から需要曲線を推定し、仮想利用料金を加算した二次需要曲線から消費者余剰を算出し、年間便益を算定した。

$$B = \sum \text{年間交流・レクリエーション等利用便益} / (1+0.04)^n$$

$$= 2022.38 \text{ 億円}$$

総費用

建設費:343.62億円、維持管理費:28.69億円

$$\text{費用計} = \sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$$

$$= 343.62 + 28.69 = 372.31 \text{ 億円}$$

熱海港海岸 海岸環境整備事業

交通基盤部 港湾局 港湾整備課



事業目的

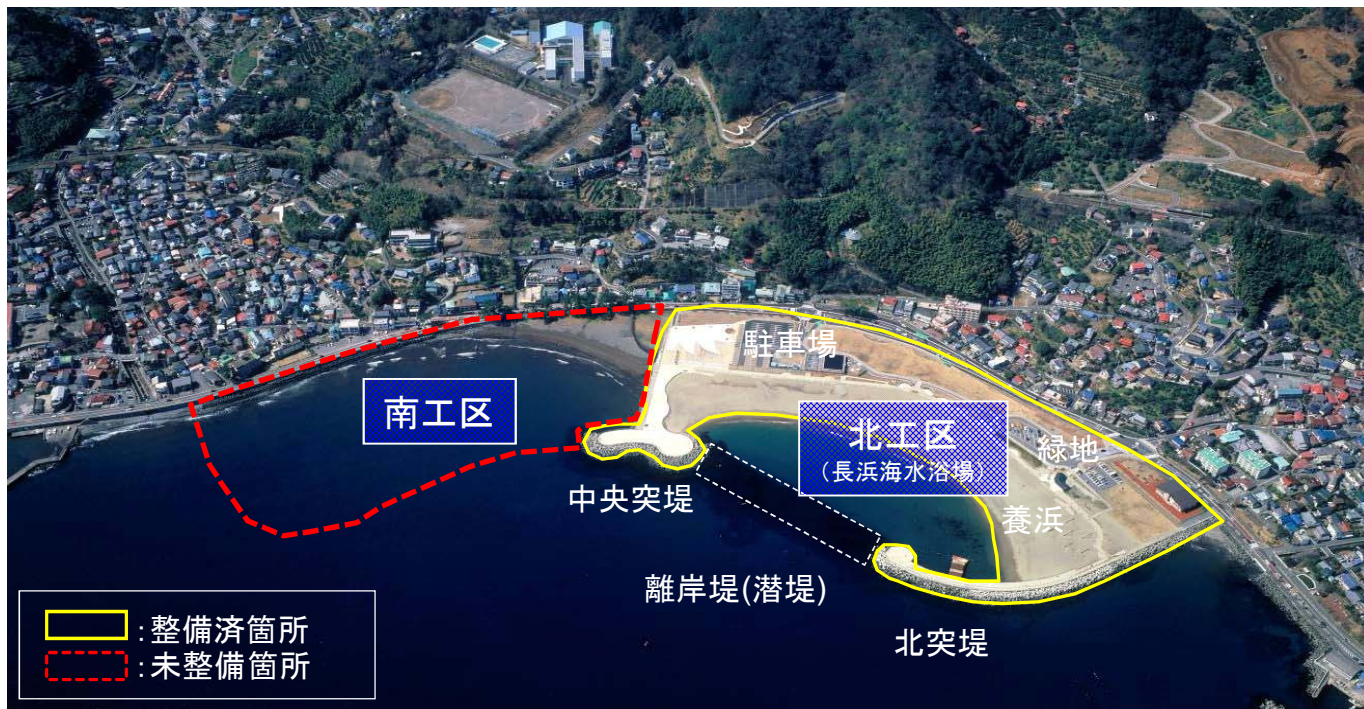
海岸防災機能を確保しながら、海浜と地域の特性を十分に活かし、地域住民が海と親しみ、集い憩える場を創出するために、親水護岸と海岸緑地の整備を図る。



渚地区・施設計画



多賀地区・施設計画



渚地区

未整備施設

多賀地区



第4工区



南工区

施設の利用状況

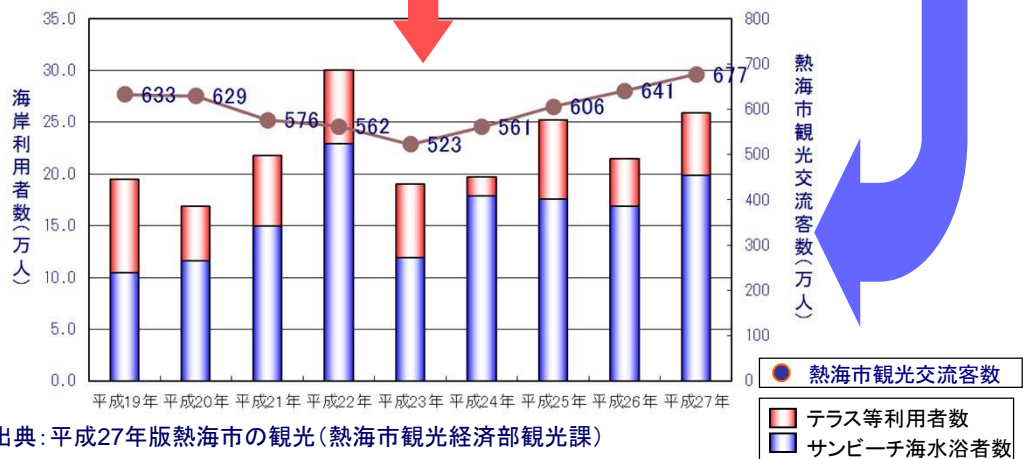
渚地区



夏場のサンビーチ



熱海ビールフェスティバル

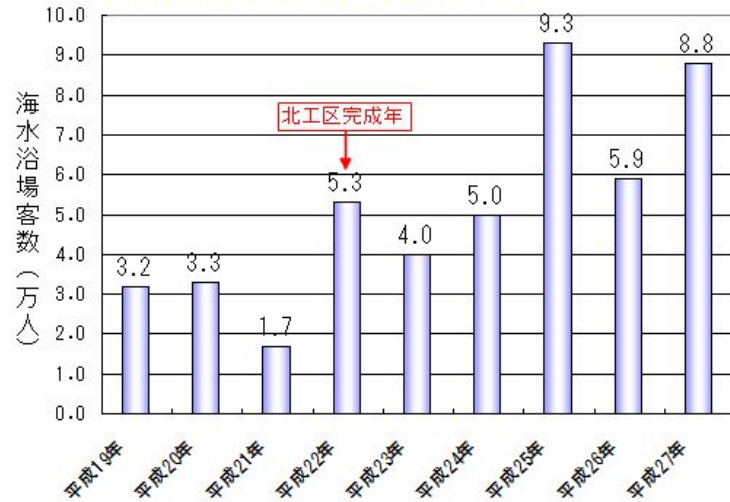


施設の利用状況

多賀地区



長浜海水浴場の海水浴客の推移



出典:平成27年版熱海市の観光
(熱海市観光経済部観光課)

熱海港海岸 海岸環境整備事業による効果

総費用(C) = 372.31億円

・全体事業費 343.62億円

・維持管理費 28.69億円

総便益(B) = 2,073.72億円

○海岸環境保全便益【海岸景観の保全・改善便益】

51.34億円

当該地背後の住民を対象にアンケート調査
を行うことで得られる支払意思額(環境整備のために
支払うことができる金額)に基づく便益

○海岸利用便益【レクリエーション等の利用の維持・向上効果】

2022.38億円

海岸利用者にアンケート調査を行うことで得られる
旅行費用と訪問回数に基づく便益

総費用(C)に対する総便益(B)

$$B/C = 5.56$$